

トラック輸送情報（平成15年 5月分）

平成15年 7月30日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

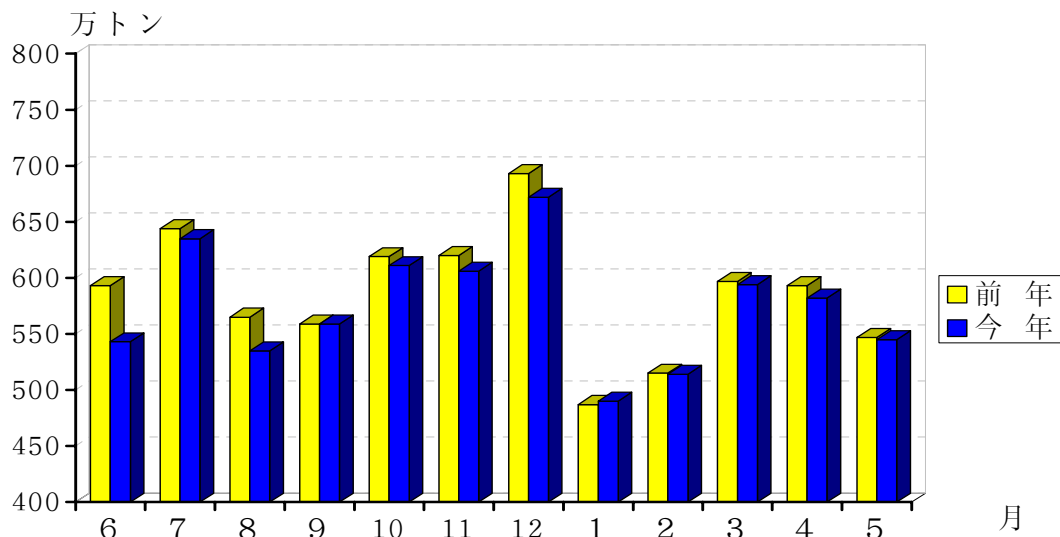
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の輸送状況

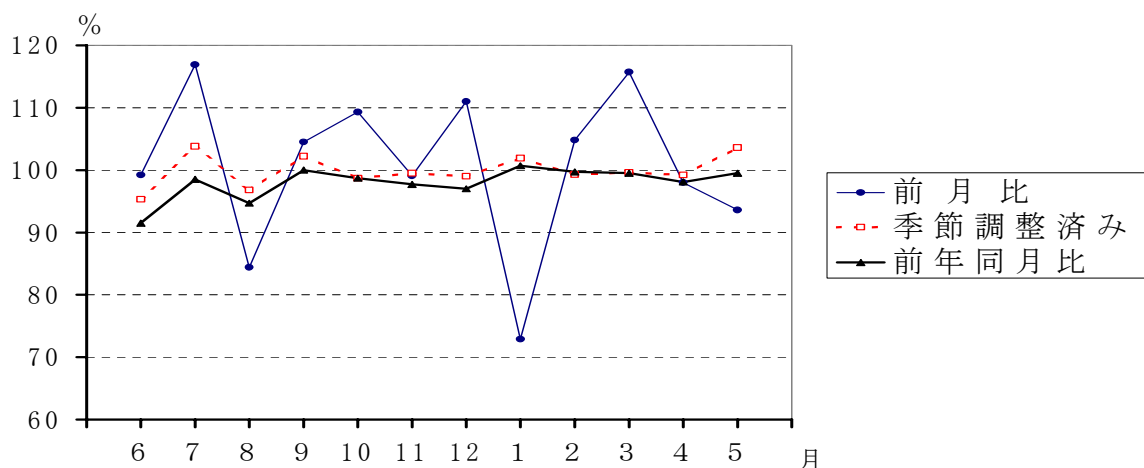
調査対象26社の本月の輸送量は5,447,686トンで、前月と比べ、総輸送量が約38万トン減少したため、前月比 93.6%（季節調整済み103.6%）、前年同月と比べると、約3万トン減少したため、前年同月比 99.5%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、23.5日で、前月と比べ、変わらず、前年同月と比べると、0.9日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、231,816トンで、前月と比べ、約1.6万トン減少したため、前月比 93.6%、前年同月と比べると、約1万トン減少したため、前年同月比 95.7%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



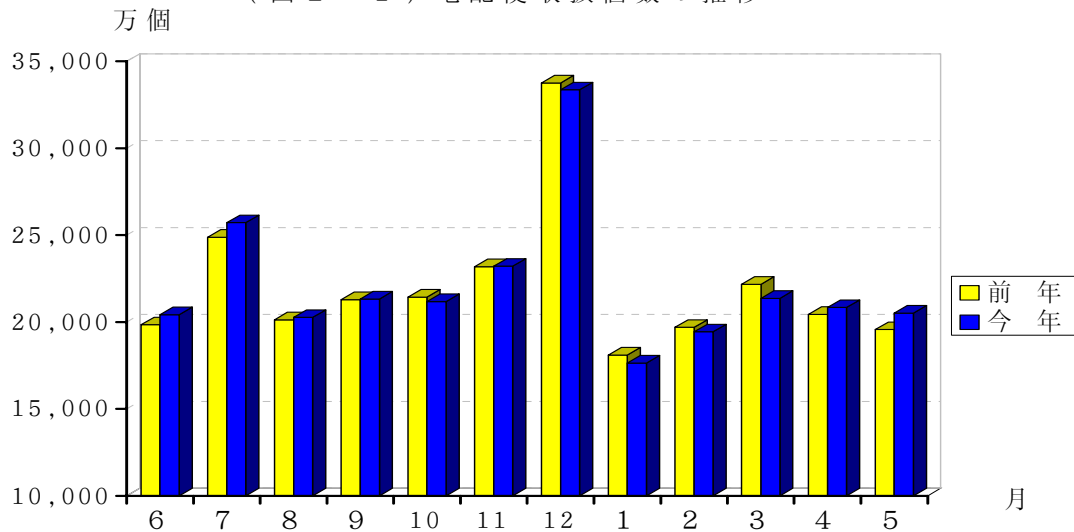
（図1-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



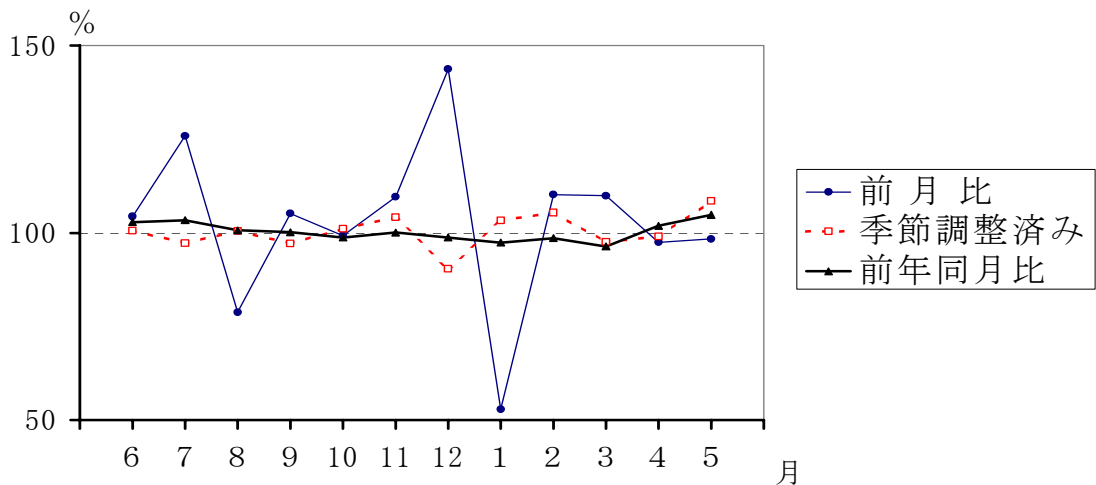
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、205,098千個で、前月と比べ、約325万個減少したため、前月比98.4%(季節調整済み108.5%)、前年同月と比べると、約941万個増加したため、前年同月比104.8%の実績であった。(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 前月比・前月比(季節調整済み)・前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、大型連休の影響もあって、ほぼ全ての品目において減少傾向にあった。中でも、日用品が全国において、工場・生産地及び商社・問屋からの貨物減、倉庫から出る貨物減、その他を主な理由として減少している。前年同月と比べると、ほぼ全ての品目において減少傾向にあった。中でも、食料工業品が関東、中部、近畿において、工場・生産地及び商社・問屋からの貨物減、不況を主な理由として、その他が全国において、不況を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	増	変らず	著減					
前月に比べて	農水産品	1	2	11	1	1	青果物、魚介類	中国	4
								東北、関東、北陸信越	4, 8
	金属製品		1	14	4	1			4
							建築用金属製品、家電製品	関東、中部、近畿	4
	機械		1	14	4	1			
							輸送機械、農機具、機械部品	関東、近畿、中国	4
	化学工業品			13	8	1			
							塗料、樹脂製品、紙、パルプ	関東、北陸信越、近畿	4, 7, 9
	繊維工業品		1	15	6	1		中部	4
								関東、北陸信越	4
前年同月に比べて	食料工業品		1	11	7	2	製造食品		2, 5
							加工食品、飲料	関東、北陸信越、近畿、中国	4, 7, 9
	日用品			10	9	2			
							一般貨物、身廻品、書籍	全国	4, 5, 7, 10
前年同月に比べて	その他		2	10	7	1		東京、大阪	2
							宅配貨物、引越し荷物	全国	4, 8, 9
	農水産品	1	1	14	1		魚介類	東北	4, 5, 7, 8
							野菜	関東、北陸信越	
	金属製品			15	4	1			
							建築用金属製品、家電製品	関東、近畿	4, 9
	機械		3	14	2	1	機械部品		4
							輸送機械、自動車部品	関東、北陸信越、近畿	4
	化学工業品		2	15	4	1	その他の化学工業品		4
							塗料、樹脂製品、化学薬品	関東、近畿	4
繊維工業品		4	14	4	1	衣料品	中部、近畿	4	
						織物	関東	4	
食料工業品		4	11	5	1			4, 6, 7	
							関東、中部、近畿	4, 5, 9	
日用品		4	12	4	1	雑貨品、書籍	関東、北陸信越	4, 5	
						一般貨物	全国	4, 5, 9	
その他		4	10	5	1		関東、北陸信越、中部、近畿	4	
						宅配貨物	全国	9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 879社 / 調査対象事業者数 1,092社）の輸送量は、前年同月比100.7%、前月比103.2%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.7%	101.1%	100.7%	99.4%	105.5%	98.8%	99.8%	100.8%	104.2%	96.8%	114.0%
前 月 比	103.2%	122.5%	101.1%	97.1%	102.8%	96.9%	98.4%	98.4%	99.7%	94.8%	98.7%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、公共工事の増加により「砂利・砂・石材」等の土木建築関係資材の輸送増が見られたため、対前月比122.5%であった。しかし、景気の冷え込みは依然として厳しい状況であり、対前年同月比は、101.1%にとどまった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に増加傾向にある。</p>
東北	<p>本月の輸送は、大型連休により稼働日数が減少したが、「野菜・果物」の出荷が始まった事や「金属製品」の需要が目立った事から、輸送量が前年を上回り、対前月比は101.1%、対前年同月比は100.7%であった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に横ばい傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、連休を理由に「日用品」「食料工業品」の減少が見られた。また、引越シーズンが終わった事による「取り合せ品（引越貨物）」についても減少した。さらに、稼働日数の減少もあり、対前月比は97.1%、対前年同月比は99.4%と減少した。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、連休の影響により稼働日数が減少した事、4月の引越シーズンがすぎた事による「取り合わせ品」の減少もあったが、建設工事の関係による「砂利・砂・石材」「セメント」等の輸送増が見られ、対前月比は102.8%、対前年同月比は105.5%となった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月は下降傾向、以降は横ばい傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、良好な天候による稼働増により「砂利・砂・石材」、工場等からの出荷増により「食料工業品」の輸送量の増加が見られたものの、景気の低迷等により「日用品」等の輸送減が見られたため、対前月比は96.9%となり、対前年同月比も98.8%と減少した。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共にほぼ横ばい傾向にある。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、府県により増加・減少が分かれ、近畿圏全体では対前月比98.4%と減少が見られた。品目別では「木材」「食料工業品」「日用品」の減少が目立っている。大型連休で稼働日数が少なくなった事も理由の一つと考えられる。また、対前年同月比は99.8%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは、輸送量が大きく伸びる要因も見あらず、次月及び以降共にほぼ横ばい傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、大型連休の関係で稼働日数、輸送量も減少したが、季節的に暖かくなり、飲料水の需要が増えたため、「食料工業品」の増加が目立った。このため、対前月比は98.4%、対前年同月比は100.8%である。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は引越期の終了により「取り合わせ品」、土木工事の終了により「砂利・砂・石材」「セメント」等の輸送が減少したが、季節的需要により「食料工業品」「日用品」の輸送増もあり、対前月比99.7%とほぼ横ばい、対前年同月比は104.2%と増加した。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
九州	<p>本月の輸送は、連休による稼働日数の減少のためか、全体的には前月よりも減少している。また、季節の変わり目による農産物や「食料工業品」、土木関係品目等を中心に輸送の減少が見られた。このため、対前月比94.8%、対前年同月比も96.8%と共に減少した。</p> <p>今後の輸送見通しは次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、大型連休によって輸送依頼及び稼働率が低下したため、ビール・ワイン・ジュース等の「食料工業品」、自動車のスクラップ等の「金属くず」の輸送が減少した。しかし、「水産品」やエレベーター・エスカレーター等の「機械」の輸送依頼が増加した事により、対前月比は98.7%と減少したものの、対前年同月比は114.0%と増加した。</p> <p>今後の輸送見通しは次月及び以降共に上昇傾向にある。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3
	減	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	5
2. 野菜・果物	増	0	3	1	1	0	1	0	2	7	0	15
	減	0	1	1	1	0	1	0	2	5	0	11
3. その他の農産品	増	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 畜産品	増	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	減	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	5
5. 水産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
6. 木材	増	4	1	0	1	0	0	0	0	1	0	7
	減	4	1	1	0	1	2	0	1	2	0	12
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9. 金属鉱物	増	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	15	1	0	2	1	0	4	0	5	0	28
	減	1	2	0	2	1	0	1	1	8	0	16
11. 工業用非金属鉱物	増	7	2	0	0	0	0	0	0	2	0	11
	減	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0	6
12. 鉄鋼	増	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	4
	減	3	1	0	0	0	0	3	1	0	0	8
13. 非鉄金属	増	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3
14. 金属製品	増	1	3	2	0	0	1	1	1	0	0	9
	減	0	1	0	2	0	1	1	1	2	0	8
15. 機械	増	0	2	1	1	0	0	1	0	2	1	8
	減	0	0	2	0	1	1	2	2	8	0	16
16. セメント	増	4	3	0	2	0	0	0	0	0	0	9
	減	0	0	0	1	0	0	4	1	4	0	10
17. その他の窯業品	増	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2

品 目		運 輸 局										
		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18. 揮 発 油	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3
19. そ の 他 の 石 油 製 品	増	1	0	0	1	0	0	2	0	2	0	6
	減	2	2	1	2	0	1	1	2	0	0	11
20. コ ー ク ス ・ そ の 他 の 石 炭 製 品	増	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
21. 化 学 薬 品	増	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	4
	減	0	0	1	1	0	0	1	0	2	0	5
22. 化 学 肥 料	増	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	減	1	3	0	0	0	0	0	0	2	0	6
23. そ の 他 の 化 学 工 業 品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	2	1	1	1	0	3	0	9
24. 紙 ・ パ ル プ	増	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3
25. 織 維 工 業 品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
26. 食 料 工 業 品	増	2	2	1	0	2	0	1	3	7	0	18
	減	0	4	2	0	0	2	0	1	6	1	16
27. 日 用 品	増	2	1	2	0	1	1	0	2	1	0	10
	減	2	0	2	1	3	3	2	1	1	0	15
28. そ の 他 の 製 造 工 業 品	増	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	5
	減	1	0	0	0	0	1	1	1	3	0	7
29. 金 属 く ず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
30. そ の 他 の く ず も の	増	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
31. 動 植 物 性 飼 ・ 肥 料	増	5	0	0	0	0	0	2	0	2	0	9
	減	2	1	1	0	0	0	1	0	2	0	7
32. 廃 棄 物	増	2	0	1	1	0	0	0	1	2	0	7
	減	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
33. 輸 送 用 容 器	増	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	減	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3
34. 取 り 合 せ 品	増	0	0	1	0	0	0	2	0	0	2	5
	減	2	2	4	3	0	0	0	2	4	1	18
35. そ の 他	増	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
	減	0	1	0	1	0	1	3	1	1	1	9